

次第

- 令和6年度 第2回 住民分科会 -

日時：令和6年9月10日（火）15：30～

場所：富士見町役場 201階会議室

1. 主査・副主査の選定

2. 第1回分科会での引継ぎ事項

- ・より具体的にKPI含めて施策を検討するためには、家庭部門でのCO2排出量を提示して、何をやっていくのが議論すべきか。
- ・他地域の事例や富士見町の現状データも含めて過年度資料から整理し、次の分科会で提示する。

3. 協議事項

- ・他地域の事例、富士見町データの整理資料紹介（別紙資料）
- ・施策例

①PR方法の検討

②交通・自転車・EV推進

③家庭向け診断に繋げるため、電力会社・ガス会社など各家庭の検診に回る際に省エネに繋がるアドバイザーになってもらえるような仕組みづくり。（省エネ家電の助言と断熱改修の助言と両方面から）

次第

- 令和6年度 第2回 住民分科会 -

- ④ナッジ法の具体例として、電気使用量の検診時等に家族構成から平均と比べた時に使用量が多いか少ないかわかるような標記ができる仕組みを作ってみる。（森のエネルギーから低圧電力の使用量が確認できるか）
- ⑤住宅の省エネリフォームや既存住宅エネルギーの補助金を活用した方にはアンケート調査を実施してみる。内容はリフォーム前後や既存住宅エネルギー導入前後の光熱費や体感温度がどう変わったかなど。
- ⑥国や県への補助金申請に係る、事業者向けの申請サポート。
- ⑦断熱改修に係るセルフビルド講習の開催など。（カインズに売っているキッドでDIY改修が可能）



議事録

- 家庭部門の削減目標は全体の30%ほど。50年後100年後に繋がるように個人個人でできる最適化な行動を導くための施策を考えてみてはどうか。
- 住宅の断熱、省エネ家電、自動車など暮らしのクオリティをUPしながらできる施策を考える。
- 太陽熱温水器の補助が少ないため、要綱等整備してみてはどうか。災害対策にもなる。
- 温暖化の意識が高い人向けの施策と、低い人向けの施策でやることが変わる。ある程度ターゲットを絞り、アクティブに動いてくれる人にまずPRしてみてはどうか。
- 富士見町の自然を楽しむ外国人も増えており、町ならではのライフスタイルがすでにエコ活に繋がっているという気づきを発信してみてはどうか。家庭菜園（畑）・出払い・森のサイクルなど脱炭素に繋がっている行動がたくさんあるため、自給自足の農村×住宅のPRに紐づける。
- 町民向けアンケートに自分がやっているエコ活が何か聞いてみる。
- 子供（小中学校）向けにアンケートを取ってみても良い。

次回の宿題

各メンバー毎にターゲット層を考え、地球温暖化対策に興味を持ってもらえるようなPR方法を発表する。

